

新約聖書写本の分類

一般的には以下の 4 種類に分類されます。

1. パピルス写本

エジプト原産の多年草であるパピルスから作成された書写材に書かれたもの。年代的にはもっとも古く、安価ながら保存的には問題があり、大半は断片で残されたもので、数も多くありません。(2015 年 8 月現在で 131 件)

2. 大文字写本

皮紙に書かれたもののうち、大文字書体（とくにアンシャル体）で書かれたもので、代表的なものにシナイ写本やバチカン写本があります。パピルス写本に次いで重要視される写本です。(2015 年 8 月現在で 288 件)

3. 小文字写本

皮紙に書かれたもののうち、小文字書体で書かれたもので、9 世紀以降に出現するもので、大文字と比べると効率的に書くことが出来、キリスト教の拡大に伴い、その数も圧倒的に多くなりますが、時代的には新しいものとなります。(2015 年 8 月現在で 2882 件)

4. 聖書日課

皮紙に書かれたもののうち、修道院等で定期的に読まれる聖書箇所を抜書きしてまとめたもので、7 世紀以降のものが、比較的多数現存しています。その性質上、新約文書全体を含むものではありませんが、新約本文再構成のための資料として活用できると考えられています。(2015 年 8 月現在で 2385 件)

参考文献：

「新約聖書解釈の手引き」日本キリスト教団出版局

Wikipedia：[「写本」](#)最終更新 2016 年 6 月 6 日 (月) 00:16

Wikipedia：[“Manuscript”](#) last modified on 9 April 2016, at 19:18

Wikipedia：[”Parchment”](#) last modified on 9 June 2016, at 21:50.